

MAGICIANS
MEETING
2024

magic®

これからの「戦略的」 Magic人材育成

2024年11月20日
株式会社光和コンピューター
出版ソリューション事業部
取締役 野口隆

KOWA
COMPUTER

企業・事業概要

- 出版業界に特化して35期目の会社
(出版社様、新聞社様、出版倉庫様、書店様、
取次店様へシステム導入)
出版社様：350社
書店様：90法人 1000店舗
- 社名：株式会社光和コンピューター
- 所在地：〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-1-2
岩本町東洋ビル5階
TEL：03-3865-1981
FAX：03-3865-1922
URL：<http://www.kowa-com.co.jp/>
e-mail: kowa@kowa-com.co.jp
- 創業：平成元年11月
- 設立：平成3年4月6日
- 資本金：3,000万円
- 社員数：114名（令和6年5月7日現在）

- 事業内容
 - ・ 情報システムの提案を通じて情報機器及びソフトウェアの制作、販売、システム保守
 - ・ 情報処理の受注及びASPサービス
 - ・ コンピューターハードウェアの保守、メンテナンス、キittingサービス
 - ・ LAN配線、電気工事の設計施工
 - ・ 視聴機の製造、販売、保守
 - ・ 店頭多機能端末



Magicの取り組み

■ Magic採用の経緯

- ・ 2000年代前半は、クラサバの仕組みが主流であったが、遠隔地対応のニーズが高まり、リッチクライアントのシステム導入を考えた
- ・ 弊社は出版業界に特化しており、提案型でシステム導入を進める事に重点を置いており開発の生産性を上げるために、ローコード開発ツールを複数社検討
- ・ 2007年頃より弊社はローコード開発ツールのMagic RIAから正式採用
(CSの採用はせず、Magic uniPaaS ⇒ Magic xpaとRIAを選択)

■ Magicの開発者

- ・ 10年ほど前に、Magic開発を専門とするグループを設立し現在16名のマジシャンが在籍
(平均年齢は、20歳前半～後半が多く、半分は女性技術者)
- ・ 2025年春には、16名の新卒採用を予定 (社内研修後に営業・技術の配属)

■ Magic導入事例

- ・ 出版社様向けERPシステムのテンプレート版を開発し、出版社・新聞社・取次・倉庫様中心に40社以上にシステム導入

人材育成・採用に関する課題

《人材育成》

■ Web、生成AI、など新しい技術の研究開発が遅れ気味

- ・現状：リッチクライアント（90%）、クラサバ（5%）、モバイル（5%）
- ・業務が中心となり研究開発に費やせる時間がなかなかとれない

■ 新卒者への技術育成

- ・市販図書、ネットなどの情報量が他の言語と比較して少ない為、自己学習が困難
- ・テンプレートと設計書を素材にOJT担当者がマンツーマンでコーディング教育しているのが現状

《採用》

■ 人材があつまりにくい

- ・中堅人材のMagic経験者は少ないが、弊社は新卒者を育てる方針

Magic技術者育成の実際

■教育カリキュラム

- Magic動画視聴（41本）（3週間） ★新卒者は全員受講しており非常に役に立っています！
- SQL（外部セミナー、基礎学習、光和オリジナル課題、WebのSQL課題）（1週間）
- Magicコーディング学習（既存プログラムと同等の内容を作成）（1カ月）
（簡易マスタ→複雑なマスタ→検索機能→印刷機能→照会機能→入力機能（スクリーン型）
→入力機能（スクリーン+ライン型））

■OJT教育（1年間）

- ペアプログラミングの実践（先輩技術者の構築をみて学ぶ）
- 入社後3カ月頃より案件アサインにて簡単なプログラミングから実施

■詳細仕様書が無くてもプロジェクトがスタート可能

- テンプレートをもとにしたアドオン・カスタマイズのためアジャイル的な開発
- 開発工数が他言語（.Net、java等）と比較すると、半分以下で短納期での開発を実現
- 作成しても保守ではほとんど見ない設計書は作成せず、生産性向上と早期にお客様に部分的にアプリケーションリリースを実現しフィードバックが可能

■SQLServerのDB技術習得

- 弊社特有ですが、バッチ系等の集計処理は大半はストアドプロシージャを使用します
処理高速化とストアド技術者との作業分担も容易にでき、こちらの知識習得にも力を入れている

習熟度合いの確認

■ 社内Magic勉強会

- ・先輩社員が教育プログラムを考え、後輩社員を教育する勉強会を開催

■ 作成したプログラムのコーディング内容チェック

- ・案件を通じて、SEがテストを行い、プログラマーへフィードバック
(場合によりコーディング内容をチェックし効率的なコーディングをアドバイス)

■ スキルレベルの管理は、当社の課題

- ・各人のスキルに見える化が出来ていない

■ Magic xpa認定技術者試験

- ・プログラマーがレベルアップするうえでの、習熟度合いの判定で活用
- ・合格により、プログラマーの一定のレベルアップが見込める
- ・プロジェクトの成功率を高めるために認定技術試験を活用していきたい

まとめ(人材育成・採用の今後)

■ローコード開発ツールなので、未経験者でも育成しやすい

- ・汎用性が高いローコード開発ツールなので、社内にて開発基準を定めて標準化策定

■ノウハウの継承

- ・ローコード開発ツールの利点を生かしたMagic開発経験を積むことによって、お客様から期待されていることやシステムエンジニア、プロジェクトマネージャー、コンサルタントへのキャリアアップも早期に実現が出来る

■有料トレーニングコースの動画化

- ・アーカイブ配信により好きなタイミングで動画視聴が出来るが良い

■Magicパートナー会社間の技術情報交流会

- ・コミュニティの活性化

MAGICIANS
MEETING
2024

ご清聴ありがとうございました